



分別の現場

そうだったのか～



■ペットボトル



受入ホッパに入れられたペットボトル。異物除去コンベアへ送られる

■破碎するごみ



運び込まれた破碎ごみは手作業で分別される

■あき缶類



投入ホッパに入れられた缶類。コンベアで選別機へと運ばれる

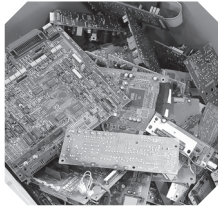
■プラスチック製容器包装



受入ヤードに山積みされたごみ袋。その後ショベルローダーで受入ホッパに投入される



ペットボトルのキャップやラベルが残っていた場合、手作業で取り除かれる



小型家電は手作業で分解され、基盤を取り除きリサイクルされる



スチール選別機、アルミ選別機でスチール缶・アルミ缶に選別される



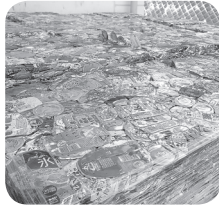
破袋機で袋を破いた後、8人がかり手作業で不適物を取り除く



圧縮包装し、リサイクル工場へと引き渡される



破碎機で粉碎され、金属を圧縮形成し、リサイクル工場へ引き渡される



スチール缶・アルミ缶ごとに圧縮形成し、リサイクル工場へ引き渡される



圧縮包装し、リサイクル工場へと引き渡される

正しい分別はコスト削減につながる

クリーンセンターでの資源ごみの分別は、人海戦術がメインです。特に、プラスチック製容器包装は、袋を破り8人がかりで中身を確認して不適物を取り除いています。資源化はしていかなければならないことですが、分別し直すことで大きな人的コスト、経済的コストがかかっているのも現状です。

また、スプレー缶のガス抜きがされていなかったり、プラごみにカミソリなどが混入されていたりすると、クリーンセンターでの事故や資源化できない原因につながりかねません。

正しい分別がされていれば、そのようなコストやリスクが削減されるばかりでなく、資源化による収入も増加します。

現在の分別方法は、平成3年に始まりました。当初は約900カ所だったごみステーションが現在は約1,500カ所に増えました。ステーションが増えるにつれ、ごみ出しのルールが守られていないケースも増えてきました。コストとリスクを削減させ、限りある資源を有効に活用するためにも、分別のルールを再度周知していきたいと考えています。



安達地方広域行政組合
もとみやクリーンセンター所長
渡辺 宏さん

ごみ分別の間違えやすい事例



◀スプレー缶・カセットボンベ

- ①すべて使い切る
- ②穴をあける
- ③本体は**ピンク色（破碎するごみ）**の指定袋へ



◀化粧品のびん

- ①中身は全て使い切る
- ②中のごみを落とす
- ③**専用コンテナ（びん用）**へ
※びんの色によって、専用のコンテナへ。汚れの落ちないものは埋立ごみの指定袋へ



◀キャップ・ふた

- ①金属を含むものは、**ピンク色（破碎するごみ）**の指定袋へ
- ②プラスチック製のものには、**透明（プラスチック製容器包装）**の指定袋へ



◀カミソリ・カッターナイフ

- ピンク色（破碎するごみ）**の指定袋へ
※刃先が「ビニール・プラスチックごみ」や「プラスチック製容器包装」の袋に混入すると大変危険です



◀布類・布製品（毛糸、わた、革製品以外）

- 黒色（埋立ごみ・布類）**の指定袋へ
※汚れているものは「燃やせるごみ」へ。毛糸、わた、革製品は「燃やせるごみ」です



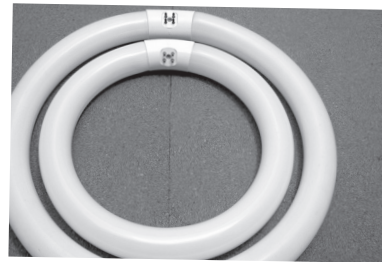
◀ヘルメット（自転車・バイク）

- ピンク色（破碎するごみ）**の指定袋へ
※家庭で使用するものに限りです。（業務・事業系のもは収集できません）



◀使い捨てライター

- 使い切って**ピンク色（破碎するごみ）**の指定袋へ
※使い捨てライターには金属が含まれているため、ごみ処理施設で破碎し、プラスチックと金属を選別する必要があります



◀蛍光灯・電球

- ①**黒色（埋立ごみ）**の指定袋へ
- ②直管の蛍光管は指定袋からはみ出る場合でも回収します
- ③割らずに指定袋に入れてください



分別の未来

一人が変われば、

まちが変わる

今回取材した環境委員の渡辺さんも、クリーンセンターを見学するまでは分別に対する意識は高くなかったと言います。私たちが自身が現状を知り、ちょっと心がけるだけで、まちは少しずつ変わっていきます。安達地方で1日1人あたり100グラムずつごみを減らすと、年間約1億3千万円節約できるという試算も出ています。

ごみの分別は大変。大変だけれども、分別をすれば環境や財政の負担を軽くすることができます。ごみや環境問題を考えるきっかけにもなります。

6月は環境月間。これをきっかけに私たち一人一人がごみの分別、そして環境について考えてみませんか。